

## 実践報告資料

研究テーマ『 伝え認め合い 共に伸びる児童の育成  
～ 豊かな表現力を身につけるためのわかる授業づくり ～ 』

研究内容【 (1), (2), (3), (4) 】

学校名 ( 姫路市立谷外小学校 )

<p><b>ア 人権教育としてのねらい</b> 友だちとの交流を通して、自分の個性や能力の素晴らしさに気付かせ、友だちと共に自分を高めていこうとする態度を育てる。</p>				
<p><b>イ 研究の概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択肢の多い教育活動を展開し、自分の力で伝え合い、共に伸びる集団づくりを行う。</li> <li>・ 児童が自信を持って活動するために、外国にルーツをもつ児童を含むすべての児童に「わかる授業」づくりを行う。</li> </ul>				
領域	教科	道徳 (特別の教科 道徳)	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	1年担任 推進教員	6年担任 推進教員	全教職員	4年担任 推進教員
実施日	9月14日	12月1日	6月～3月	10月13日
取組名	ちょうどなんじ なんじはん	百日かせぎ	谷外小学校のスローガンを考えよう	誰もが過ごしやすい社会を考えよう
目標	短針や長針がさす目盛りに着目して「何時」「何時半」の時刻を正確に読み取ったり、模型の時計で時刻を表したりできる。 他者との交流を通して、コミュニケーション能力を向上させ、豊かな人間関係を築く。	栄治の努力とその周囲の変化に注目することで、不合理や差別を見すごさず主体的に行動しようとする意欲を育てる。 意見交流を通して、多様な考えに気づき、仲間と共に伸びていく。	友だちの良さを伝え合うことで、個性や能力に気付かせ、自尊感情を育むとともに、互いに認め合う集団を育てる。	障害について理解を深め、誰もが過ごしやすい社会にするために自分ができることを考える。 外国にルーツをもつ児童を含むすべての児童が、自分の考えを伝え合い、共に伸びようとする意欲を育てる。
資料名	「なんじ なんじはん」 (わくわく算数1年下)	「百日かせぎ」 『ほほえみ』(県教育委員会)	/	/
指導内容や指導方法の工夫等	時刻の読み取りと時刻に関連する用語の実態を把握して、授業設計を行う。 思考の混乱を避けるために、①短針②長針の順に指導する。指導者が作成した動画を使って、教育用語や言葉に慣れながら、短針から長針の順に動き方と読み方を学ぶ。 ペア学習によって、インプット・アウトプットや相互評価を行い、コミュニケーション能力の向上を図り、共に高め合う。	中心発問では「お酒造りに一番貢献した人物は誰か」を考え、話し合いの焦点を絞ることによって、一人ひとりの見方や考え方に違いがあることを理解し、互いに認め合う。 話し合いでは、自分の考えを明確にするために3色のプレートを使って視覚化し、考えが変化した時はプレートの色を変え、意見の変化や強い思いに注目しながら、多様な考え方があることに気付く。	全児童の目標となるスローガンを代表委員会で決定し、そのスローガンを受けて、各委員会の特色を生かした取組について話し合う。 放送委員会が「ハート宅配便(友だちのいいところ)」として、全校生から募集したメッセージを給食の時間に読み上げたり、広報委員会が「人権にかかわる新聞」を発行したりする。	車イスやアイマスクなどの体験をしたり、ゲストティーチャーと触れ合ったりして、障害のある人が抱える課題を身近に感じさせる。 自分で設定したテーマを決めて調べ、まとめたことを伝え合うことによって、一人ひとりの考え方の違いに気づき、自分や相手の良さを認め合い、共に高め合う。